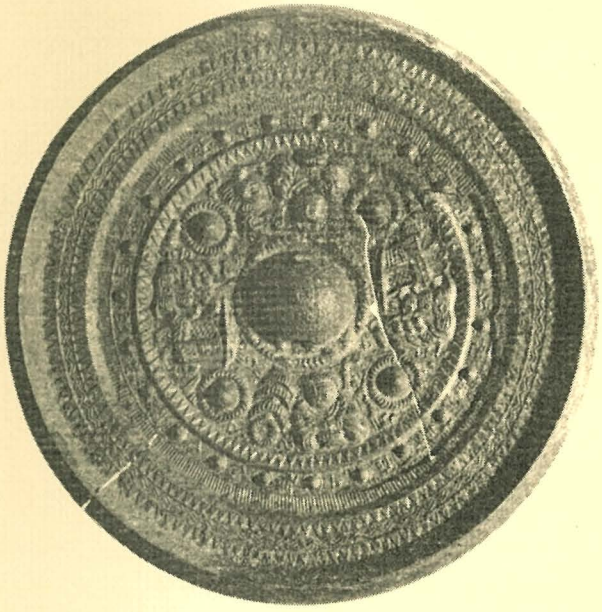
福岡市埋蔵文化財センター年報

第 1 号

昭和56年度



1 9 8 2 年

あ　い　さ　つ

福岡市は先史時代より大陸との文化交流の門戸として栄え、歴史的遺産である貴重な埋蔵文化財が多く包蔵されている地域でありますが、近年の緊急発掘調査により出土した遺物は膨大な量にのぼります。埋蔵文化財センターは、各所に分散保管されていた貴重な遺物や調査記録類を収蔵、整理、研究し、これらを広く市民に展示公開し、埋蔵文化財保護思想の普及啓蒙を図る文化施設として、昭和57年２月22日に開館しました。準備から開館までの間によせられました市民及び関係者各位の絶大なる御指導御支援につきましては、深く感謝いたします。

このたび、開館までの経緯を含めた年報第１号（昭和56年度）を刊行することになりました。本書が埋蔵文化財をとおしての郷土愛の醸成及び当センターの今後の運営の指針ともなれば幸甚と存じます。関係者各位の労を多とするとともに、埋蔵文化財センターの今後の隆盛を期待いたしまして御挨拶にかえます。

昭和57年５月

教育長　西　津　茂　美

昭和57年２月22日に福岡市埋蔵文化財センターが、わが国最古の稲作農耕集落跡として著名な国指定史跡板付遺跡と甕棺墓地である国指定史跡金隈遺跡とに囲まれた博多区井相田に開館しまして、はや３ヵ月を経過し、一般市民、各種団体等多数の見学者を迎える現在、準備期間も含めた８年間の歩みを年報の創刊号といたすことは、当センターにとって記念すべきことであります。一口に８年間と言えば短いようにも感じられますが、多くの市民各位の絶大なる御支援御協力、関係者各位のたゆまざる努力と精進により、さまざまな問題を克服してようやく開館にこぎつけたことを思いますと感慨深いものがあります。

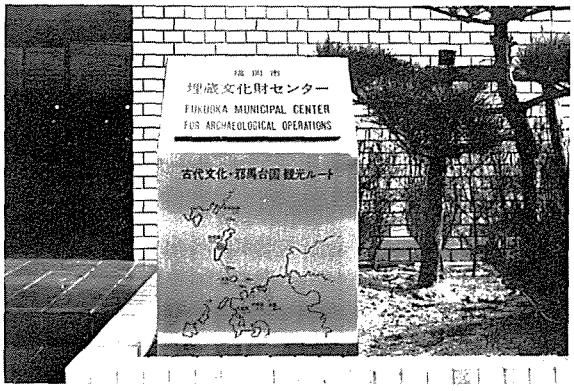
当センターは、貴重な歴史的遺産である埋蔵文化財を収蔵、整理、研究し、これらを広く市民に展示公開する施設でありますことから、今日の、生涯教育の急速な高まりのなかで、その充実と向上に一役を担うユニークな文化施設として発展させていきたいと念願いたしております。

昭和57年５月

所　長　三　宅　安　吉

目　　次

あ い さ つ
設置の趣旨……（３）
埋蔵文化財センターの開館まで……（３）
業務内容……（４）
工事の概要……（４）
施設と規模……（５）
館案内……（６）
埋蔵文化財センター図書分類法……（９）
受贈図書一覧……（９）
資料の整理保存処理施設……（11）
機構と職員構成……（13）
職員名簿……（13）
業務概要（昭和53年度～昭和56年度）……（14）
年度別事業費一覧……（15）
開館式……（16）
昭和56年度入館者の動向……（17）
福岡市埋蔵文化財センター条例……（18）
福岡市埋蔵文化財センター条例施行規則……（19）
収蔵資料一覧（遺跡名）……（21）
福岡市の文化財……（22）



※表紙の写真は、藤崎遺跡第６号方形周溝墓出土の三角縁二神二車馬鏡。直径22.3cm。市指定有形文化財。

設置の趣旨

九州の主都福岡市は、先史時代以来一衣帯水の玄界灘をはさんで隣接する中国・朝鮮の文化を享受するわが国の門戸として、大きな役割を果たしてきた。

現在は、九州の中枢都市、国際都市として、政治、経済、文化等の面で着実な発展をつづけている。

そのため、人口の増加も著しく、各種の土地開発も急激に増加して、これにともなう埋蔵文化財の緊急発掘調査によって出土した遺物や調査記録類は、膨大な量にのぼる。

福岡市埋蔵文化財センターは、各所に分散保管していた貴重な遺物や調査記録類を一堂に集めて収蔵し、その一部を展示して資料の活用をはかる目的をもって設置されたものである。

埋蔵文化財センターの開館まで

昭和48年度	・旧中央公民館等に分散保管している発掘資料の一括収蔵と資料整理ができる埋蔵文化財収蔵庫の建設構想が持ち上がる。
昭和49年度	・埋蔵文化財センター建設構想が持ち上がる。
昭和53年４月	・埋蔵文化財センターの設置決定
昭和53・54年度	・建設用地選定作業
昭和55年６月	・建設用地内定
６月７日	・基本設計
８月７日	・建設予定地内の埋蔵文化財の有無確認のための試掘調査
８月31日	・実施設計
10月14日	・建設用地購入
12月26日	・工事入札
12月28日	・工事着工
昭和56年10月23日	・工事完了
12月21日	・条例制定　・職員発令
昭和57年１月25日	・条例施行規則制定
２月	・出土遺物の搬入
２月22日	・開館式挙行　・条例、条例施行規則の施行

業務内容

1．遺物の収蔵、分類、整理に関すること。
2．木器、金属器等の科学的保存処理に関すること。
3．埋蔵文化財の調査記録類の分類、整理、保存に関すること。
4．収蔵した遺物や調査記録類の公開・展示に関すること。
5．埋蔵文化財についての相談に関すること。
6．収蔵資料の貸出しに関すること。
7．収蔵資料の図録・目録の刊行に関すること。
8．埋蔵文化財保護思想普及のための公開講座に関すること。
9．収蔵資料の保存方法、収蔵方法等の研究に関すること。
10．その他、埋蔵文化財に関すること。

工事の概要

（1）所在地　福岡市博多区井相田二丁目1番94号

（2）敷地面積　4,000m²

（3）構造　鉄筋コンクリート造3階建一部2階建

（4）建築面積　1,015m²（延床面積　1,992m²）

（5）事業費　504,063千円（工事費　483,056千円　設計監理費　21,007千円）
収入内訳（国庫補助金　65,000千円　市負担金　439,063千円）

（6）工期　着工　昭和55年12月28日　竣工　昭和56年10月23日

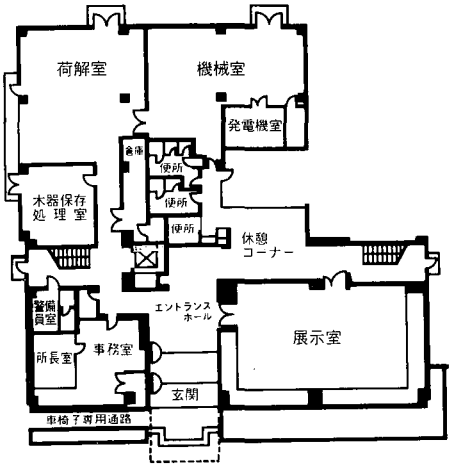
（7）主要施設　1階　事務室、エントランスホール、展示室、木器保存処理室、荷解室
2階　資料整理室、写場、暗室、収蔵展示室、講座室
3階　記録類収蔵室、製図室、金属器保存処理室、特別収蔵室
屋上　ペントハウス
屋外　木器用プール

（8）設備　空気調和機器、放送機器、防災機器、視聴覚機器、写場調光機器、木器保存処理機器（ＰＥＧ含浸装置）、移動式書架、エレベーター、遺物運搬用リフト

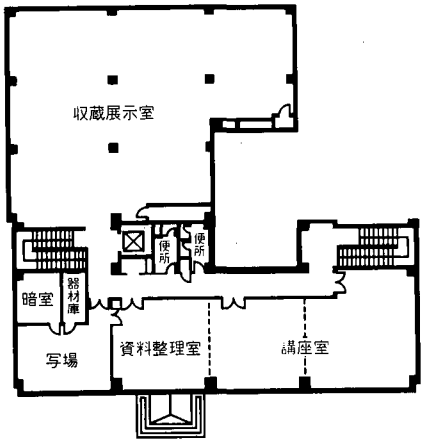
施設と規模

延床面積……1,992m²

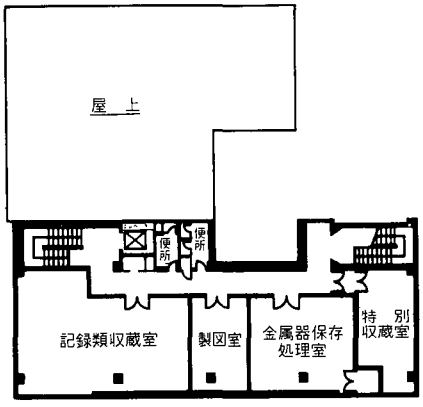
1　階	798m²
エントランスホール	123m²
展　示　室	167m²
木器保存処理室	40m²
荷　解　室	144m²
事　務　室	66m²
警　備　員　室	9m²
機　械　室	129m²
そ　の　他	120m²
2　階	740m²
資料整理室	58m²
講　座　室	140m²
写場・暗室	63m²
収蔵展示室	345m²
そ　の　他	134m²
3　階	415m²
記録類収蔵室	125m²
製　図　室	37m²
金属器保存処理室	73m²
特別収蔵室	52m²
そ　の　他	128m²
屋　上	39m²
ペントハウス	39m²



1階平面図



2階平面図

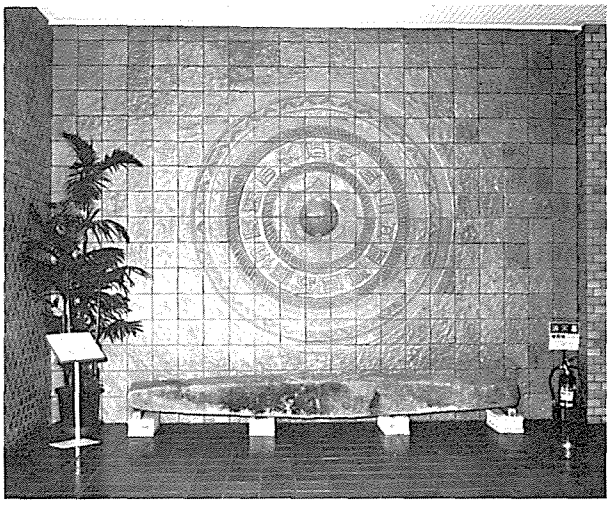


3階平面図

館案内

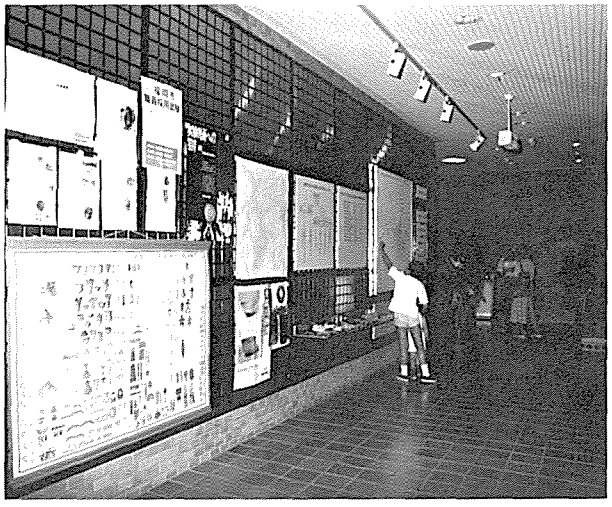
1階　エントランスホール

博多区下呉服町出土の碇石を、また、正面の壁面には博多区宝満尾遺跡出土の明光鏡を実物の約20倍のレリーフで展示しています。



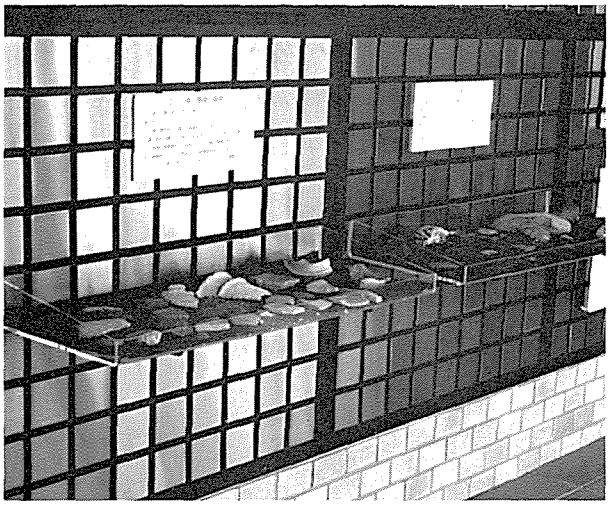
1階　休憩コーナー

見学できる市内の遺跡、現在発掘調査中の遺跡及び市内とその周辺の考古資料展示室をもった施設等をご案内しています。また、歴史年表、各種展覧会のポスター等も掲示しています。

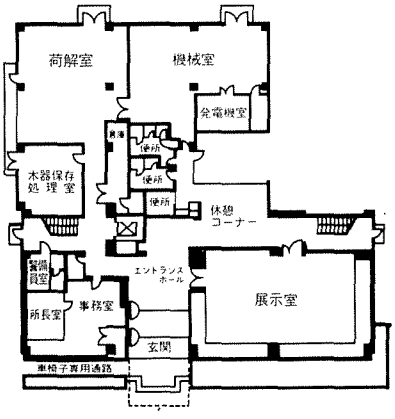


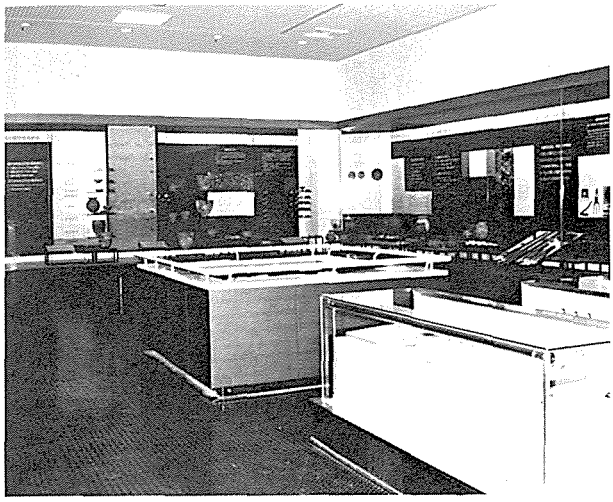
1階　オープン展示コーナー

弥生土器や須恵器の破片、石斧、穂摘み具（石庖丁）、石器の原材料である黒曜石、弥生時代前期の炭化米等を手にとって見られます。



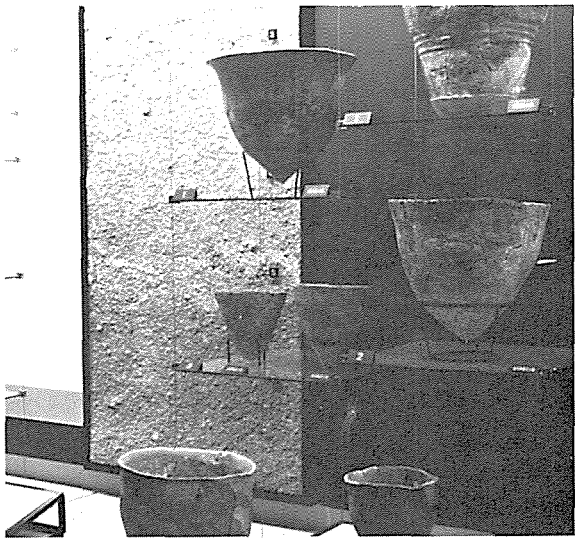
1階平面図





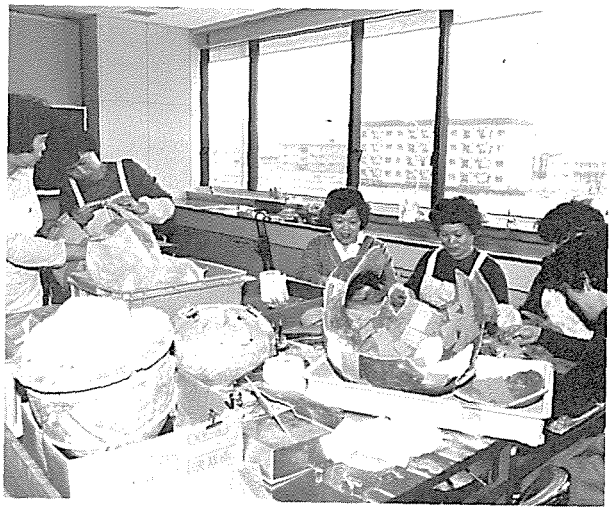
1階　展示室

市内の旧石器時代から江戸時代にいたる代表的遺跡を壁面型地図模型に表示し、福岡平野が古くから開けていたことが理解しやすくなっています。また、埋蔵文化財の発見から保存にいたる過程を写真・文字パネルと出土遺物等を用いて解説、速報コーナーでは最新の発掘資料を展示し、埋蔵文化財についての理解を深めていただきたいと考えています。



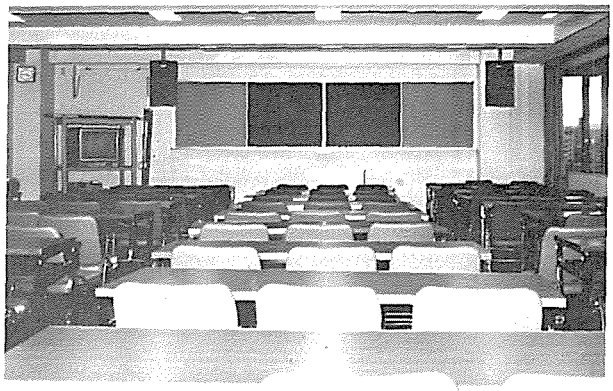
２階　資料整理室

出土遺物の整理・復原作業時には窓越しに内部が見学できます。



２階　講座室

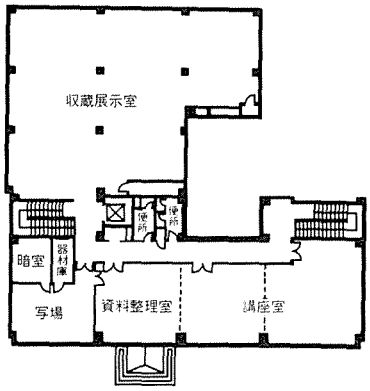
16ミリ映写機、スライド映写機、ビデオ、ＯＨＰ等の視聴覚機器を用いて考古学講座等を開催します。



２階　収蔵展示室

市内各所から出土した考古資料を二層式で収蔵し、その一部を展示しており、埋蔵文化財がより身近に感じとれます。見学ご希望の方が受付に申し出れば、ご案内します。

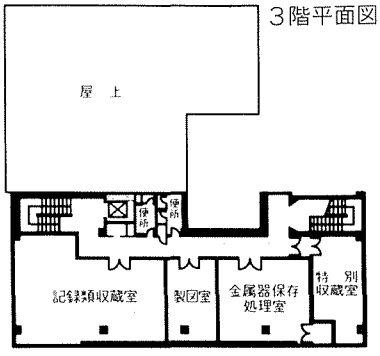
２階平面図



3階　図書コーナー

記録類収蔵室で考古学関係図書の閲覧ができます。

3階平面図



埋蔵文化財センター図書分類法

A　考古学関係
A 0　総論、通史、概説
A 1　叢書、全集、講座、著作集
A 2　論文、論文集、講演集
A 3　関連諸科学（人類学、土俗、民俗など）
A 4　資料集（図版・実測図）、展覧会図録・目録
A 5　写真集（土器、石器、青銅器、鉄器など）
A 6　旧石器時代
A 7　縄文時代
A 8　弥生時代
A 9　古墳時代
A10　歴史時代
A11　雑
H　報告書（都道府県別、福岡県内は市郡別）
M　雑誌（論文名カード、著者名カード）
J　ジュニア
K　郷土関係
K 0　九州
K 1　福岡県
K 2　佐賀県
K 3　長崎県
K 4　熊本県
K 5　大分県
K 6　宮崎県
K 7　鹿児島県
K 8　沖縄県
K 9　山口県
※外国はＮＤＣに準ずる。

受贈図書一覧

春日市教育委員会
「浦ノ原窯跡群」　春日市文化財調査報告書　第11集　1981年

大野城市教育委員会
「仲島遺跡Ⅱ」　大野城市文化財調査報告書　第6集　1981年
「牛頸平田窯跡」　大野城市文化財調査報告書　第7集　1981年
「大野城市の民俗⑤」　大野城市文化財調査報告書　第13集　1981年

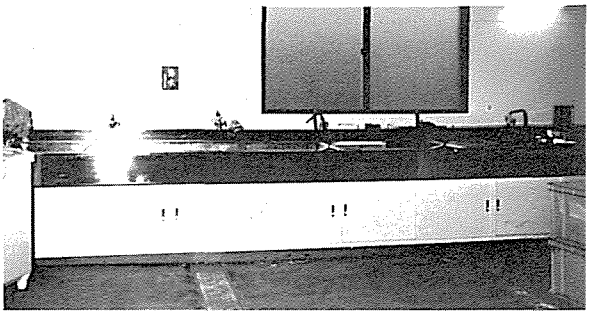
九州歴史資料館
「大宰府史跡昭和55年度発掘調査概報」　1981年

佐賀県教育委員会
「経塚山古墳」　浜玉町文化財調査報告書　第1集　1980年
「姫方原遺跡」　中野建設　1981年
「菰ノ江遺跡」　三根町教育委員会　1981年
「香田遺跡」　佐賀県教育委員会　1981年
「九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報」　佐賀県教育委員会　1981年
「押川遺跡」　佐賀県文化財調査報告書　第60集　1981年
「川寄吉原遺跡」　佐賀県文化財調査報告書　第61集　1981年

「上場の文化財(1)」　佐賀県文化財調査報告書第62集　1981年
唐津市教育委員会
「久里大牟田遺跡」　唐津市文化財調査報告　第1集　1980年
「柏崎松本遺跡」　唐津市文化財調査報告　第2集　1980年
佐賀県立博物館
「肥前町百田洞穴」　佐賀県立博物館調査研究書第6集　1980年
「本分貝塚」　佐賀県立博物館調査研究書　第7集　1981年
熊本大学文学部考古学研究室
「宇宿港遺跡」　研究室活動報告10　1981年
「カミノハナ古墳群」　研究室活動報告11　1981年
長崎県立美術博物館
「長崎県立美術博物館年報　昭和54年度」．1981年
佐世保市教育委員会
「三川内古窯跡群緊急確認調査報告－木原地蔵平窯跡の発掘調査－」　1978年
「三川内古窯跡群緊急確認調査報告－分布調査－」　1978年
「宮の本遺跡緊急調査概報　昭和54年度」　1980年
「宮の本遺跡」　佐世保市埋蔵文化財調査報告書　1980年
平安博物館
「平安京跡研究調査報告」　第5輯　古代学協會　1981年
大和川・今池遺跡調査会
「大和川・今池遺跡Ⅲ」　1981年
河内考古刊行会
「河内太平寺古墳群」　河内考古刊行会　1979年
京都府埋蔵文化財調査研究センター
「京都府埋蔵文化財情報」　創刊号　1981年
「京都府埋蔵文化財情報」　第2号　1981年
奈良市教育委員会
「奈良市埋蔵文化財調査報告書　昭和55年度」　1981年
尾張旭市教育委員会
「尾張旭市の古窯」　1978年
東京都埋蔵文化財センター
「多摩ニュータウン遺跡　昭和55年度」　第1分冊～第4分冊　1981年
「東京都埋蔵文化財センター年報1　昭和55年度」　1981年
埼玉県埋蔵文化財調査事業団
「埼玉県埋蔵文化財調査事業団年報1」　1981年
浜松市教育委員会
「向山遺跡・谷山古墳群発掘調査概報」　1982年
高知県教育委員会
「土佐国衛跡発掘調査報告書」　第2集　1981年
防府市教育委員会
「防府市文化財調査年報」Ⅰ(1978年)　Ⅱ(1979年)　Ⅲ(1980年)
朝日新聞西部本社
「古代を掘る」　1978年
日本住宅公団九州支社
「瑞穂－福岡市比恵台地遺跡－」　1980年
西谷　正
「日本考古学年報28　1975年版」　1977年
飛高憲雄
「日の出」　東旭川町教育委員会　1960年
「世界考古学大系」5　平凡社　1960年
芹沢長介「石器時代の日本」　1960年
石田英一郎ほか「人類学」　東京大学出版会　1961年
「射的山」　永山町役場　1961年
「寿都遺跡」　寿都町教育委員会　1963年
「北海道の化石」　北海道地学教育連絡会　1964年
「栗山町の文化財」　栗山町教育委員会　1964年
日本人類學會「日本民族」　岩波書店　1964年
藤森栄一「銅鐸」　学生社　1964年
V・G・チャイルド　近藤義郎訳「考古学の方法」　河出書房　1964年
杉原荘介「夏島貝塚」　中央公論美術出版　1964年
「日本の考古学」1・2　河出書房　1965年
遠藤邦彦編「考古学・地質学の年代を決める炭素による年代測定」　ニュー・サイエンス社　1965年
「甲野勇先生の歩み－武蔵野の花の露－」　1968年
金素雲編著「精解韓日辞典」　1972年
紅村弘「東海の先史遺跡－総括編－」　1975年
明治大学考古学専攻講座「駿台考古学論集1・2」　1975年
「考古学手帖」11～26（合本）
「私たちの考古学」9・11・12
「考古学研究」34・35

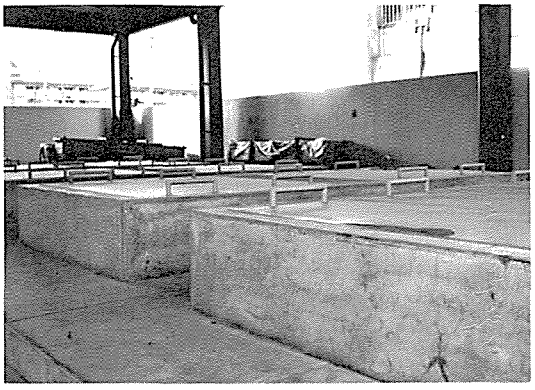
資料の整理保存処理施設

▲荷解室（1階）

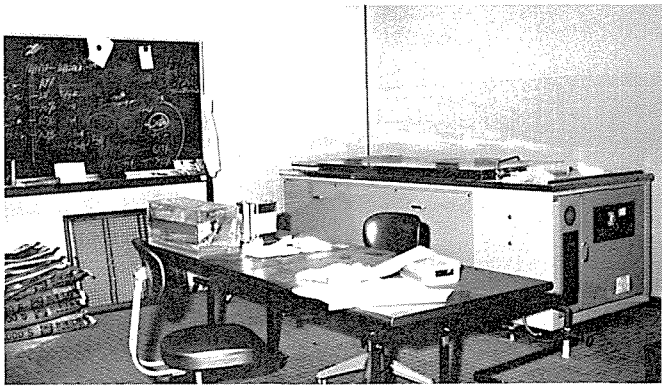


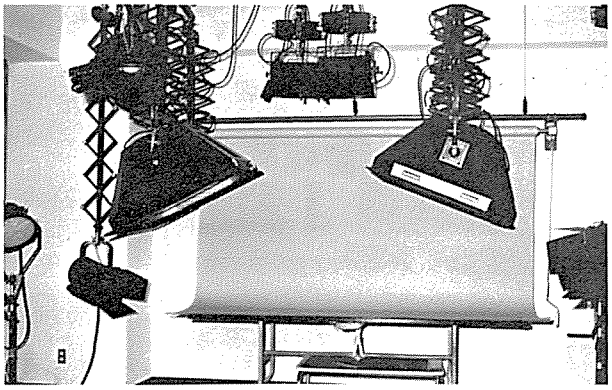
▲水洗コーナー（1階）

▼木器用プール（屋外）

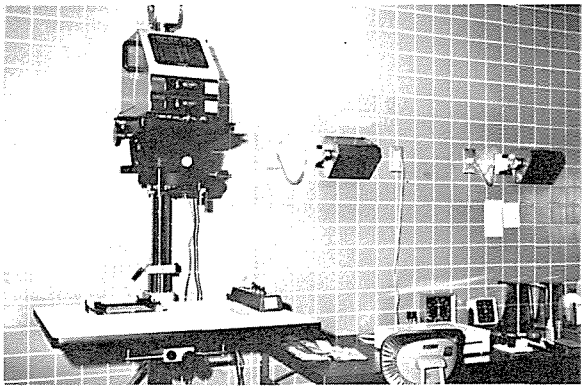


▼木器保存処理室（1階）



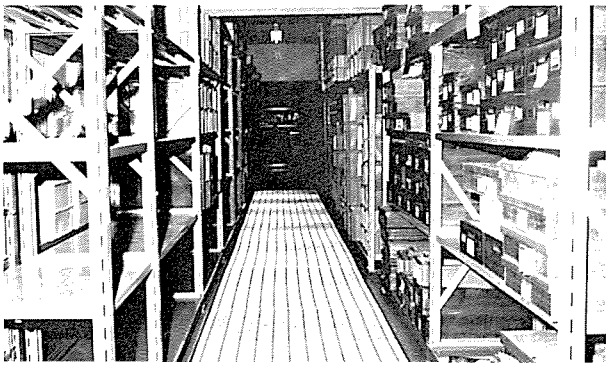


▲写場（2階）

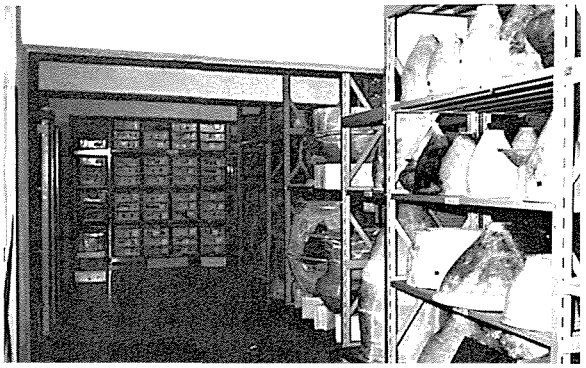


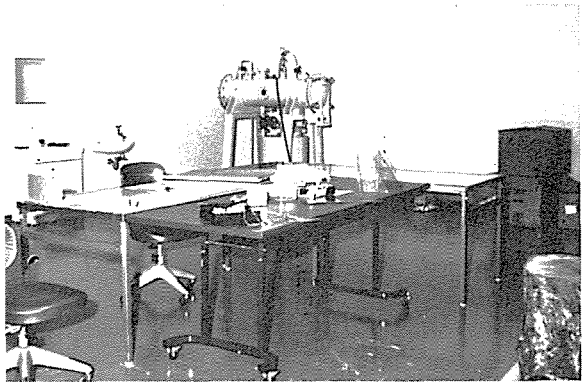
▲暗室（2階）

▼収蔵展示室（2階）

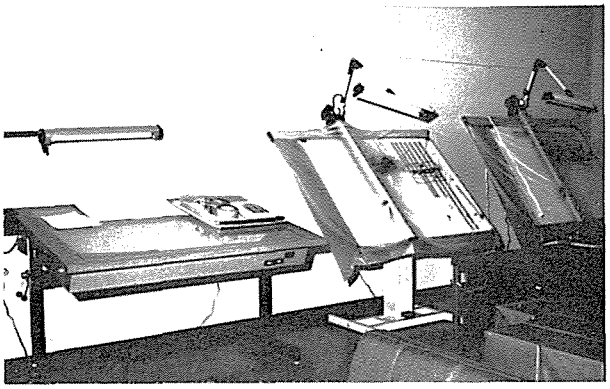


▼収蔵展示室（2階）



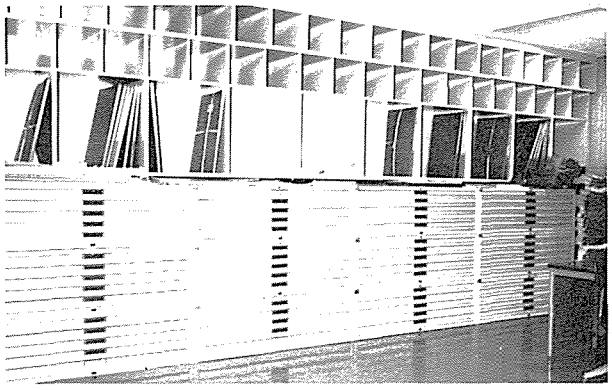


▲金属器保存処理室（３階）

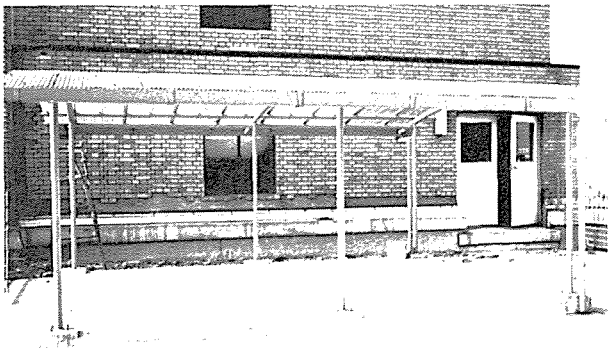


▲製図室（３階）

▲特別収蔵室（３階）



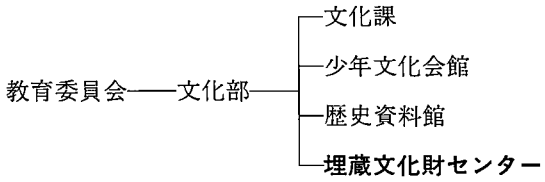
▲記録類収蔵室（３階）



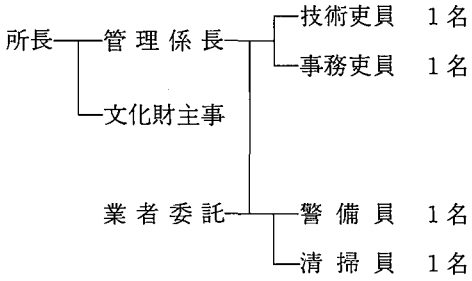
▲ペントハウス（屋上）

機構と職員構成

(1) 機　構



(2) 職員構成



職員名簿

職　名	氏　名	摘　要
所　長	三宅安吉	事務吏員
管理係長	千鳥義太郎	事務吏員
文化財主事	飛高憲雄	技術吏員
技術吏員	山口譲治	
事務吏員	徳永寛樹	
事務補助員	古川恭子	臨時職員
事務補助員	清水裕子	臨時職員
事務補助員	高木静代	臨時職員
事務補助員	佐藤英子	臨時職員
警備員(夜間)	寺本宗義	業務委託会社出向職員
警備員(夜間)	陣内　勉	業務委託会社出向職員
清掃員	宮口節技	業務委託会社出向職員

業務概要（昭和53年度～昭和56年度）

昭和53年4月　・建設用地選定作業が始まる。

昭和55年6月　・建設用地が内定する。

6月7日　・建物の基本設計及び実施設計の契約を株式会社汎建築設計事務所と締結する。（基本設計　～7/31　実施設計　～9/30）

6月17日　・設備の基本設計及び実施設計の契約を有限会社蟻設備設計事務所と締結する。（基本設計　～8/30　実施設計　～10/30）

8月7日　・建設予定地内の埋蔵文化財の有無確認調査を行う。（～8/13）

10月14日　・建設用地を購入する。

12月27日　・建物の工事契約を株式会社岩堀工務店と締結する。

昭和56年8月19日　・スチール棚の移送を日立運輸株式会社に委託する。（8/20～8/24）

8月24日　・電気設備保安業務を社団法人九州電気管理技術者協会の中村豊彦氏に委託する。（11/1～3/31）

9月19日　・外構工事の測量設計を有限会社大建測量設計に委託する。（9/20～11/18）

10月23日　・建物が完成する。

11月10日　・警備業務及び清掃業務を東京ビル整美株式会社に委託する。
（警備業務　11/16～3/31　清掃業務　1/19～3/31）

12月9日　・外構工事の契約を有限会社鮫島純土木と締結する。（12/10～2/17）

12月21日　・教育委員会文化部に開設準備担当職員が発令される。
・福岡市埋蔵文化財センター条例を制定する。

昭和57年1月19日　・展示室の展示施設製作を株式会社ケンラン社に委託する。（1/20～2/21）

1月25日　・福岡市埋蔵文化財センター条例施行規則を制定する。

2月3日　・出土遺物の移送を日立運輸株式会社に委託する。（2/4～2/13）

2月9日　・収蔵展示室用陳列ケースの移送を日立運輸株式会社に委託する。（2/10～2/16）

2月19日　・収蔵展示室の展示施設製作を株式会社ケンラン社に委託する。（2/20～3/5）

2月22日　・開館式会場設営を有限会社オークラに委託する。（2/22・2/23）
・館内装飾用植木鉢借上契約をうらかわ園芸と締結する。（2/22～3/31）
・開館式を挙行する。
・福岡市埋蔵文化財センターが開館し、一課一係制となる。
・福岡市埋蔵文化財センター条例及び施行規則を施行する。

3月15日　・館案内板の製作を東豊道路機材株式会社に委託する。（3/16～3/30）

年度別事業費一覧

建設費

（単位　千円）

区　分	総事業費	昭和53年度	昭和54年度	昭和55年度	昭和56年度	備　考
調査費	2,104	（用地選定）300	—	（試掘調査）1,804	—	
設計委託料	15,450	—	—	（基本・実施設計）14,600	（測量設計）850	
建設工事費	452,601	—	—	（杭打工事）14,600	（建築・設備工事）438,001	建築本体、電気、空調、給排水、昇降機、ガス
外構工事費	30,455	—	—	—	30,455	フェンス、植栽、舗装
監理監督委託料	5,557	—	—	1,989	3,568	
初度設備費	30,000	—	—	—	30,000	図書、備品関係
展示台等製作費	8,888	—	—	—	8,888	展示室パネル、展示台等
遺物移送費	3,420	—	—	—	3,420	木器・土器・金属器等の移送
開館準備費	4,216	—	—	—	4,216	賃金、電話代等
事務費	800	—	—	400	400	
計	563,491	300	—	33,393	519,798	

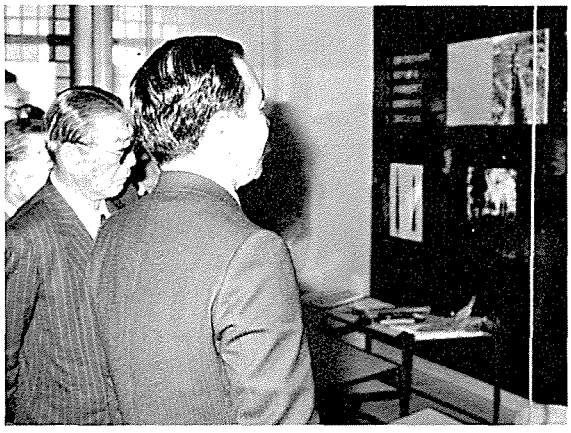
※用地購入費を除く。

管理運営費

（単位　千円）

区　分	昭和56年度	備　考
一般管理費	520	印刷消耗品、電話料、自動車借上料
施設管理費	4,654	電気、水道、警備・清掃委託
資料分類整理費	1,357	賃金
計	6,531	

開館式



日時：昭和57年２月22日　AM10：30～11：30

会場：福岡市埋蔵文化財センター講座室

（１）式典の経過

開式のことば

式　　辞　福岡市長　　進藤一馬

あ い さ つ　福岡市教育委員会
　　教育委員長 白木勘治

建設経過報告　福岡市教育委員会
　　教育長　　西津茂美

祝　　辞　福岡県知事　亀井　光
　　（副知事代読）
　　福岡市議会
　　議長　　大江健一

閉式のことば

（２）館内案内　AM11：30～12：00

テープカット（於　展示室入口）

福岡県副知事　　広末賢一
福岡市長　　進藤一馬
福岡市助役　　和田祐之
福岡市議会議長　　大江健一
福岡市教育委員会
　　教育委員長　　白木勘治
九州大学文学部教授　岡崎　敬

観　　覧

（３）出席者

県関係者（福岡県、福岡県議会、福岡県教育庁）

市関係者（福岡市、福岡市議会、福岡市教育委員会）

建設指導委員

福岡市文化財保護審議会委員

学識経験者

施工業者、報道関係者

昭和56年度入館者の動向（昭和57年２月23日～３月31日）

１．入館者統計

	個人入館者								団体入館者										計		総計
	一般		学生					計	一般		小学生		中学生		高校生		大学生				
	男	女	小	中	高	大	その他		団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	
2月	215	82	94	9	8	17	0	425	2	83	1	13	0	0	0	0	0	0	3	96	521
3月	400	189	209	35	24	41	22	920	18	779	4	159	0	0	0	0	1	13	23	951	1,871
計	615	271	303	44	32	58	22	1,345	20	862	5	172	0	0	0	0	1	13	26	1,047	2,392

２．年齢別入館者数（個人一般）

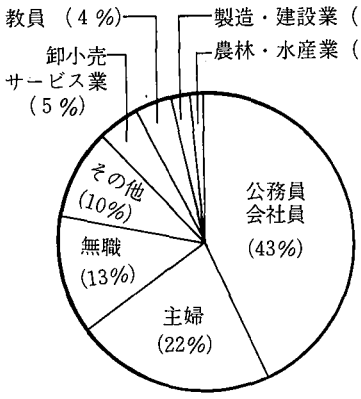
	16～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60以上	計
2月	0	47	69	54	60	67	297
3月	0	96	170	134	97	92	589
計	0	143	239	188	157	159	886

３．地域別入館者数

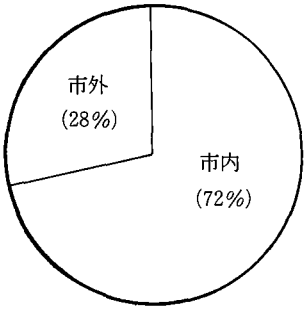
	市内	市外	計
2月	375	146	521
3月	1,340	531	1,871
計	1,715	677	2,392

４．職業別入館者数

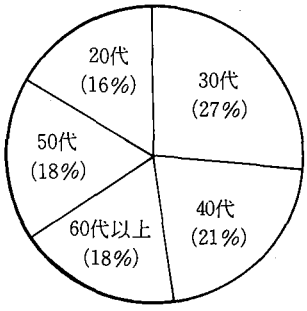
	農林水産業	製造建設	卸小売サービス	公務員会社員	教員	その他	主婦	無職	計
2月	3	8	27	117	11	26	53	52	297
3月	10	11	14	267	21	62	141	63	589
計	13	19	41	384	32	88	194	115	886



職業別入館者



地域別入館者



年齢別入館者
（個人一般）

福岡市埋蔵文化財センター条例

（昭和56年12月21日
条例第66号）

（設置）

第1条　発掘調査等で出土した考古学的資料（以下「資料」という。）の保存と活用を図り、もって市民文化の向上に資するため、福岡市埋蔵文化財センター（以下「センター」という。）を福岡市博多区井相田二丁目に設置する。

（事業）

第2条　センターは、次の各号に掲げる事業を行う。

(1)　資料の収集、整理及び保存に関すること。

(2)　資料を展示し、公開すること。

(3)　資料の専門的調査研究を行うこと。

(4)　前3号に掲げるもののほか、センターの設置の目的達成に必要なこと。

（職員）

第3条　センターに所長その他必要な職員を置く。

（入館の制限）

第4条　教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒み、又は退去を命ずることができる。

(1)　センターの管理上必要な指示又は指導に従わない者

(2)　センターの管理上支障があると認められる者

（資料の貸出し）

第5条　教育、学術若しくは文化に関する機関若しくは団体又は学術研究のため特に資料を利用しようとする者は、教育委員会の許可を受けて資料の貸出しを受けることができる。

2　前項の貸出しは、資料の保管について安全が確保できると認められる場合に限り行うものとする。

（損害賠償）

第6条　資料の観覧者又は貸出しを受けた者が、その責めに帰すべき理由によりセンターの建物若しくは施設又は資料を破損し、又は汚損して本市に損害を与えたときは、これらを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

（委任）

第7条　この条例に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附　則

この条例は、公布の日から起算して3月を超えない範囲内において教育委員会規則で定める日から施行する。

（昭和57年教規則第3号により
昭和57年2月22日から施行）

福岡市埋蔵文化財センター条例施行規則

（昭和57年1月25日
教育委員会規則第4号）

（趣旨）

第1条　この規則は、福岡市埋蔵文化財センター条例（昭和56年福岡市条例第66号、以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第2条　福岡市埋蔵文化財センター（以下「センター」という。）の事務を行うため、センターに管理係を置く。

（職員）

第3条　センターに所長、係長、吏員その他の職員を置く。

2　前項の職員のほか、特定事務を担当させるため、センターに文化財主事を置くことができる。

3　所長、係長及び文化財主事は、吏員のうちから命ずる。

4　所長及び係長は、上司の命を受けてセンター又は係の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

5　文化財主事は、上司の命を受けて担当事務を処理する。

6　吏員その他の職員は、上司の命を受けて分担する事務を処理する。

（職務権限の代行）

第4条　所長に事故がある場合、又は所長が欠けた場合において、特に事務取扱者を命じないときは、係長がその係に属する事務について所長の職務権限を代理して行う。ただし、重要又は異例な事務については、文化部長の指揮を受けなければならない。

2　前項の規定により所長の職務権限を代理して行う者がないときは、文化部長が行う。

（開館時間）

第5条　センターの開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育長は、必要があると認める場合には、これを変更することができる。

（休館日）

第6条　センターの休館日は、次のとおりとする。ただし、教育長は、必要と認める場合には、これを変更し、又は臨時に休館日を設けることができる。

(1)　毎週月曜日

(2)　12月28日から翌年1月4日まで

（入館者の心得）

第7条　センターに入館する者は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

(1)　所定の場所以外の場所で飲食し、喫煙し、又は火気を使用しないこと。

(2)　騒音を発する等他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。

(3)　危険物又は動物を持ち込まないこと。

(4)　所定の場所以外に立ち入らないこと。

(5)　職員が行う管理上必要な指示又は指導に従うこと。

（貸出し）

第8条　条例第5条第1項の規定による資料の貸出しを受けようとする者は、福岡市埋蔵文化財センター資料貸出許可申請書（様式第1号）を教育長に提出しなければならない。

2　条例第5条第1項の規定による資料の貸出しの許可は、福岡市埋蔵文化財センター資料貸出許可書（様式第2号）を交付して行う。

（寄贈等）

第9条　センターに資料を寄贈し、又は寄託しようとする者は、教育委員会に申し出なければならない。

2　寄託を受けた資料の貸出しは、寄託者の承諾を得て行うものとする。

（委任）

第10条　この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附　則

この規則は、昭和57年2月22日から施行する。

様式第1号

福岡市埋蔵文化財センター資料貸出許可申請書

年　月　日

福岡市教育委員会教育長 殿

申請者　住所

氏名　㊞

福岡市埋蔵文化財センター所蔵の資料の貸出し（館内・館外）を受けたいので、福岡市埋蔵文化財センター条例施行規則第8条第1項の規定により次のとおり申請します。

1　資料名

2　目　的

3　期　間

様式第2号

福岡市埋蔵文化財センター資料貸出許可書

第　号

年　月　日

殿

福岡市教育委員会
教育長　印

年　月　日申請された資料の（館内・館外）貸出しについては、次のとおり許可します。

1　資料名

2　目　的

3　期　間

4　条　件

収蔵資料一覧（遺跡名）

〔西　区〕

相原古墳群
石丸古川遺跡
今宿西松原遺跡
今山遺跡
今山・今宿遺跡
乙石古墳群
金武古墳群
草場古墳群
小松ヶ丘古墳群
小葎遺跡
下山門遺跡
下山門南遺跡
十郎川遺跡
拾六町ツイジ遺跡
周船寺大久保遺跡
戸切遺跡
徳永アラタ古墳群
都地南遺跡
長浜貝塚
野方勧進原遺跡
野方塚原遺跡
野方中原遺跡
広石古墳群
姪浜新町遺跡
夫婦塚古墳群
吉武塚原古墳群

〔早良区〕

有田・小田部遺跡
飯倉向江遺跡
影塚古墳群
四箇遺跡
次郎丸高石遺跡
高取遺跡
鶴町遺跡
西新町遺跡
原談儀遺跡
原深町遺跡
藤崎遺跡

〔城南区〕

大谷古墳群
片江古墳群
片江神松寺遺跡
片江辻遺跡
カルメル修道院内遺跡
倉瀬戸古墳群
笹栗遺跡
早苗田古墳群
浄泉寺遺跡
宝台遺跡
七隈古墳群
干隈古墳群

〔中央区〕

小笹遺跡
福岡城御鷹屋敷遺跡

〔南　区〕

井手古墳群
大牟田古墳群
五十川（新幹線）遺跡
野多目拈渡遺跡
野多目前田遺跡
三宅廃寺
弥永（新幹線）遺跡
老司観音山遺跡

〔博多区〕

青木遺跡
板付遺跡
金隈遺跡
三筑遺跡
下月隈遺跡
下月隈天神森遺跡
下月隈宮ノ後遺跡
那珂深ヲサ遺跡
宝満尾遺跡
瑞穂遺跡
席田遺跡群
諸岡遺跡
冷泉遺跡

〔東　区〕

海の中道遺跡
蒲田遺跡
蒲田水ヶ元遺跡
多々良遺跡
多々良（新幹線）遺跡
和白遺跡群

福岡市の文化財

史跡

昭57．2現在

	名称	所在地	所有者又は管理者	指定年月日
国指定史跡（8件）	元寇防塁	東区箱松4丁目、中央区地行西区今津、横浜、青木、生の松原、姪浜、西新	福岡市	昭6．3.30（追加）昭56．3.16
	聖福寺境内	博多区御供所町6-1	聖福寺	昭44.11．7
	金隈遺跡	博多区金隈字観音浦、字日焼	福岡市	昭47．5.17
	板付遺跡	博多区板付2丁目、3丁目	福岡市	昭51．6.21
	福岡城跡	中央区城内	福岡市	昭32．8.29
	丸隈山古墳	西区周船寺	福岡市	昭3．2．7
	大塚古墳	西区今宿字大塚	福岡市	昭42.12.15
	野方遺跡	西区野方	福岡市	昭50．6.27
県指定史跡（5件）	桔野塚（附哺川墓、句碑、寄附碑）	東区馬出5丁目	福岡市	昭31．7.28
	比恵環溝住居遺跡	博多区博多駅南4丁目	福岡市	昭35．1.12
	亀井（南冥・昭陽）家の墓	中央区地行2丁目3-3	浄満寺	昭38．5．4
	宮崎安貞墓（附宮崎安貞書斎一棟）	西区周船寺381-14	宮崎安貞翁顕彰会	昭40．4．6
	元岡瓜尾貝塚	西区元岡字池の浦	福岡市	昭43．2．3
市指定史跡（2件）	東光院境内	博多区吉塚3丁目20-37	福岡市	昭49．8.12
	平尾山荘	中央区平尾5丁目19-34	福岡市	昭49．8.12

有形文化財（考古資料）

	名称	員数	所在地	所有者又は管理者	指定年月日
国宝	金印（印文「漢委奴國王」）	1顆	中央区大濠公園（福岡市美術館）	福岡市	昭29．3.20
重要文化財	銅戈鐔范（糸島郡前原町大字三雲出土）	1個	東区箱崎6丁目	九州大学	昭30．2．2
	内行花文鏡（糸島郡前原町大字三雲出土）	1面	博多区御供所町6-1	聖福寺	昭27．3.29
	有柄細形銅剣（糸島郡前原町大字三雲出土）	1口	博多区御供所町6-1	聖福寺	昭27．3.29
	青釉経筒（伝筑前国四王寺阯経塚出土）	1合	博多区中洲3丁目28-30	田中丸コレクション	昭30．6.22
	石製経筒	1合	中央区舞鶴1丁目31	許斐 須磨子	昭14．5.27
	壺形土器（福岡市西区城ノ原出土）	1個	中央区大濠2丁目3-22	澤田 藤一郎	昭42．6.15
	壺形土器（長崎県壱岐郡勝本町立石唐神出土）	1個	中央区大濠公園（福岡市美術館）	福岡市	昭42．6.15
	銅製宝塔形経筒（筑前国四王寺阯経塚出土）	1合	西区金武1734-8	内本光	昭30．2．2
	銭弘俶八万四千塔化字あり	1基	西区今津851	誓願寺	昭44．4.17
県指定有形文化財	細形銅剣鐔范残欠（志賀島大字勝馬出土）	1個	東区大字志賀島517-3	志賀海神社	昭33．7.26
	石造宝篋印塔	1基	東区大字志賀島517-3	志賀海神社	昭33.10.29
	蒙古碇石	1個	東区箱崎1丁目22-1	筥崎宮	昭34．3.31
	地蔵菩薩像板碑	1基	博多区冷泉町7-8	原田嘉平	昭33.10.29
	銅戈	6口	博多区住吉3丁目1-51	住吉神社	昭33.10.29
	銅鉾	5口	博多区住吉3丁目1-51	住吉神社	昭33.10.29
	蒙古碇石	2個	博多区上川端町1-41	櫛田神社	昭34．3.31
	蒙古碇石	1個	博多区博多駅前1丁目29-9	承天寺	昭34．3.31
	蒙古碇石	1個	博多区御供所町6-2	瑞応庵	昭34．3.31
	蒙古碇石	1個	博多区中呉服町6-24	善導寺	昭34．3.31
	蒙古碇石	1個	博多区冷泉町7-8	原田嘉平	昭34．3.31
	康永三年銘梵字板碑	1基	博多区千代町2丁目	古跡麁玄塚保存会	昭48．4.19
	蒙古碇石	1個	中央区舞鶴2丁目5-27	福岡市	昭34．3.31
	銅鉾鐔范残欠（福岡市南区大字五十川出土）	1個	南区五十川2丁目4-3	妙楽寺	昭33．7.26
市指定有形文化財	正平廿一年銘梵字板碑	1基	東区松島1丁目12-8	松崎六田地蔵保存会	昭49．8.12
	嘉暦三年銘自然石梵字板碑　附自然石梵字板碑1基	1基	博多区麦野6丁目14-4	日吉神社	昭55．3.10
	三角縁二神二車馬鏡	1面	博多区井相田2丁目1-94	福岡市	昭56．3.30

福岡市埋蔵文化財センター年報

第1号　昭和56年度

1982年5月31日発行

編集発行　福岡市埋蔵文化財センター
〒816　福岡市博多区井相田二丁目1番94号
TEL.(092) 571－2921

印刷　祥文社印刷株式会社

ご 案 内

開館時間　9：00～17：00（入館は16：30まで）

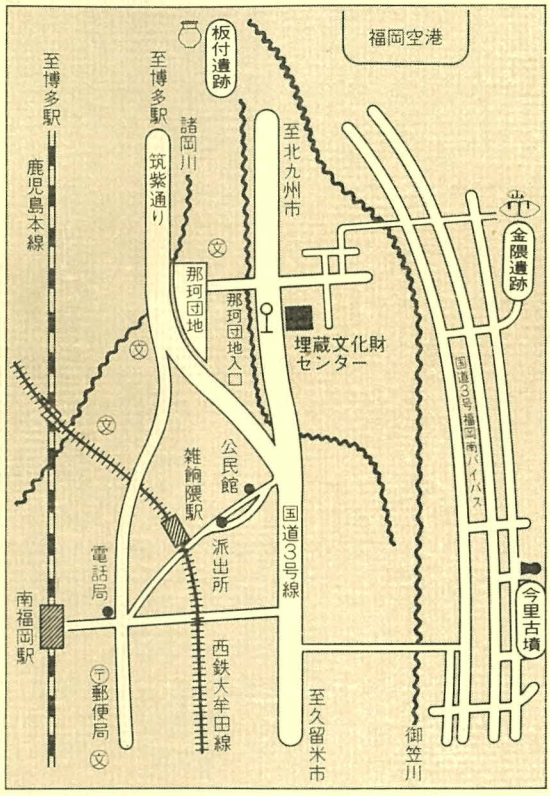
休 館 日　毎週月曜日

　　年末年始（12月28日～1月4日）

入 館 料　無　　料（但し団体で見学される場合は、あらかじめご連絡ください。）

駐 車 場　乗用車13台、大型バス4台駐車可

案 内 図



■西鉄バス（行先番号㊵・㊶）

　　那珂団地入口（埋蔵文化財センター前）下車

■西鉄大牟田線雑餉隈駅から徒歩約14分

■国鉄鹿児島本線南福岡駅から徒歩約19分